

経済レポート

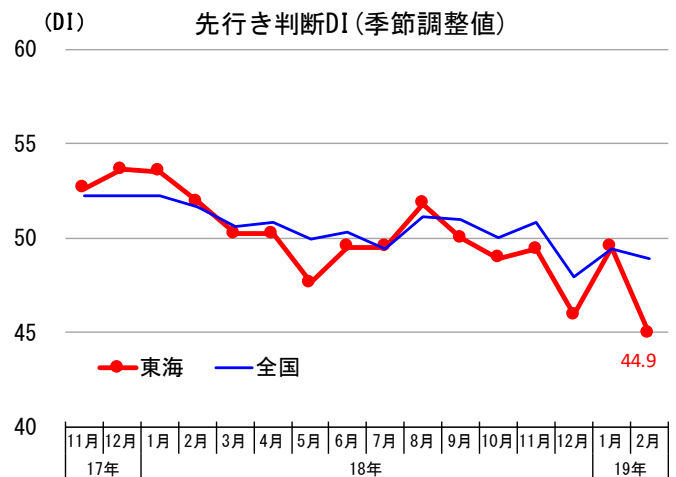
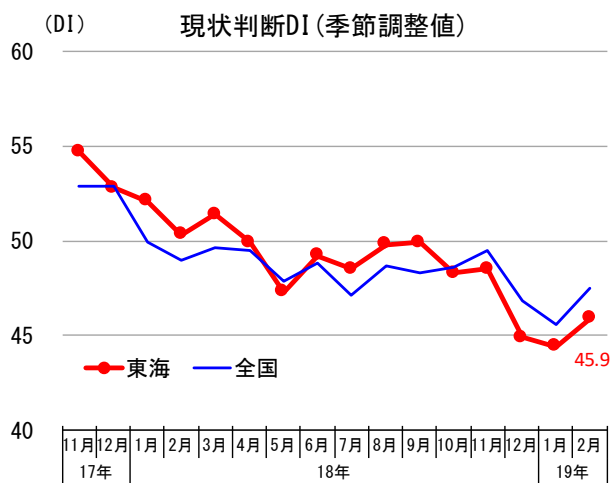
景気ウォッチャー調査(東海地区:2019年2月)

～ 現状判断DIは3ヶ月ぶりに上昇～

調査部 主任研究員 塚田裕昭

- 3月8日に内閣府が公表した「景気ウォッチャー調査」によると、東海地区の2月の

**現状判断DI(季節調整値)は、前月差+1.5ポイントの45.9と3ヶ月ぶりに上昇した。
先行き判断DI(季節調整値)は、前月差-4.6ポイントの44.9と2ヶ月ぶりに低下した。**



- 当社では、東海地区の景気ウォッチャーの見方を

弱い動きが見られる。先行きについては、消費税率引き上げ前の駆け込み需要への期待が見られる一方、一部商品の値上げによる消費抑制や海外情勢などが懸念されている。

とまとめ、基調判断を据え置いた。

(前月のまとめ)

「弱い動きが見られる。先行きについては、消費税率引き上げ前の駆け込み需要への期待が見られる一方、米中貿易戦争など海外要因による停滞が懸念されている。」

- 内閣府では、全国調査での景気ウォッチャーの見方を

緩やかな回復基調が続いている。先行きについては、海外情勢等に対する懸念もある一方、改元や大型連休等への期待がみられる。

とまとめている。

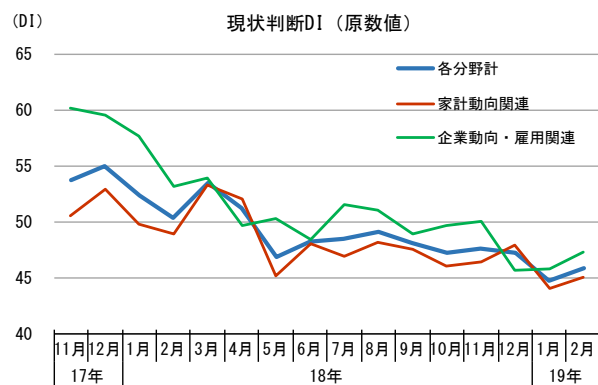
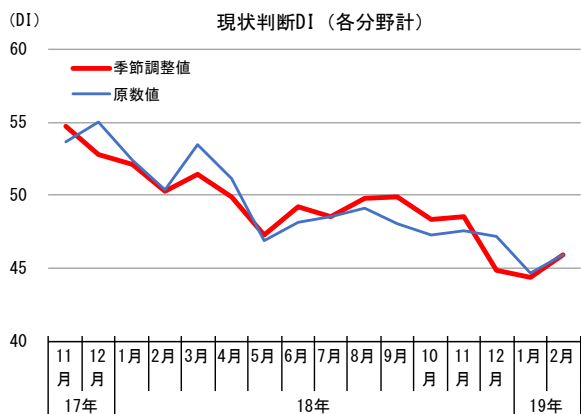
(前月のまとめ)

「緩やかな回復基調が続いているものの、一服感がみられる。先行きについては、海外情勢等に対する懸念もある一方、改元や大型連休等への期待がみられる。」

1. 景気の現状判断（3ヶ月前との比較、方向性）

（1）DIの動向

- 3ヶ月前と比較しての景気の現状に対する判断DI¹（季節調整値）は、前月差+1.5ポイントの45.9と3ヶ月前ぶりに上昇した。また、原数値では、前月差+1.2ポイントの45.9と3ヶ月前ぶりに上昇したが、横ばいを示す50を10ヶ月連続で下回った。良好な天候の影響や決算期の売上増などから、改善方向の回答へのシフトが見られた。
- 現状判断の原数値の動きを部門別に見ると、家計動向関連（小売、飲食、サービス、住宅関連）DIは、同+1.0ポイントの45.1と2ヶ月前ぶりに上昇したが、横ばいを示す50を10ヶ月連続で下回った。また、企業動向関連と雇用関連からなるDI²は、同+1.5ポイントの47.3と前月から上昇したが、横ばいを示す50を3ヶ月連続で下回った。



¹ 本調査のアンケート・サンプル総数は224、うち家計関連149、企業・雇用関連75。以下、先行き判断、水準についても同様。

² 企業動向関連と雇用関連からなるDI（原数値）は、内閣府HPに掲載されている地域別の各分野合計値から家計動向関連の値を除いた上で、「景気ウォッチャー調査」のDI算出方法に従って当社調査部にて試算した。

(2) ウォッチャーのコメントから読み取る景気動向

(注) コメント引用部左側の記号は以下の通り

◎:良くなっている、○:やや良くなっている、□:変わらない、▲:やや悪くなっている、×:悪くなっている

【家計動向関連】

- 改善方向の回答がやや増加し、DIが改善した。良好な天候や決算期による売り上げ増、消費税引き上げ前の駆け込みなどが後押しした面もあるようだ。

○	一般小売店[土産] (経営者)	好天に恵まれ降雪等による交通障害もなく観光客の動きも良好だった。暖冬で客の足取りもゆったりとしており、財布のひもも緩みがちである。
○	乗用車販売店(経営者)	来客数、購買数共に増えている。決算時期ということもあり、客の動きも良い。
○	住宅販売会社(従業員)	契約数が伸びた。消費税引上げの影響でようやく動き始めた感がある。来場数も増えたので1月よりも客の動きが良くなっており3月末契約の潜在的予備軍もいると思われる。3月への期待も感じる月であった。

- 春節による売上増は、期待したほどではなかったとの声が多い。

□	百貨店(経理担当)	今年の春節は、一定数の中国人旅行者をもたらしたものの、前年や一昨年のような前年実績を大きく超える力強さは感じられなかった。
□	百貨店(販売担当)	ギフト需要は変わらず高いが、自家需要は余り伸びていない。ホワイトデーや卒入学のお祝い選びの下見が増加している。インバウンドは、春節は期待したほどではなかったが、後半は観光客の需要が高まった。
□	旅行代理店(経営者)	春節のインバウンドの売上もなく、モノからコトへのシフトは殊の外大きい。今後もモノからコト消費へ発想を転換しなければ経営が成り立たなくなる。

【企業動向関連】

- 景気が停滞しているわけではないものの、勢いは落ちてきているようだ。

○	通信業(総務担当)	東京オリンピックに向けて、周囲の明るさや、いろいろな環境整備がされることで活気付ききっかけとなり、気持ちが前向きになっている。ただし、身近な販売実績や集客という点では、皆、世界情勢をみて警戒している。
□	輸送用機械器具製造業(品質管理担当)	ここ数か月、生産量が増加し続けているので、景気が更に良い方に向かっているというわけではなく、高止まりしている。
□	輸送業(エリア担当)	貨物の荷動きが113.4%と伸びているが、前月の127.3%という大幅な伸びに比べると、少し見劣りがする。

【雇用関連】

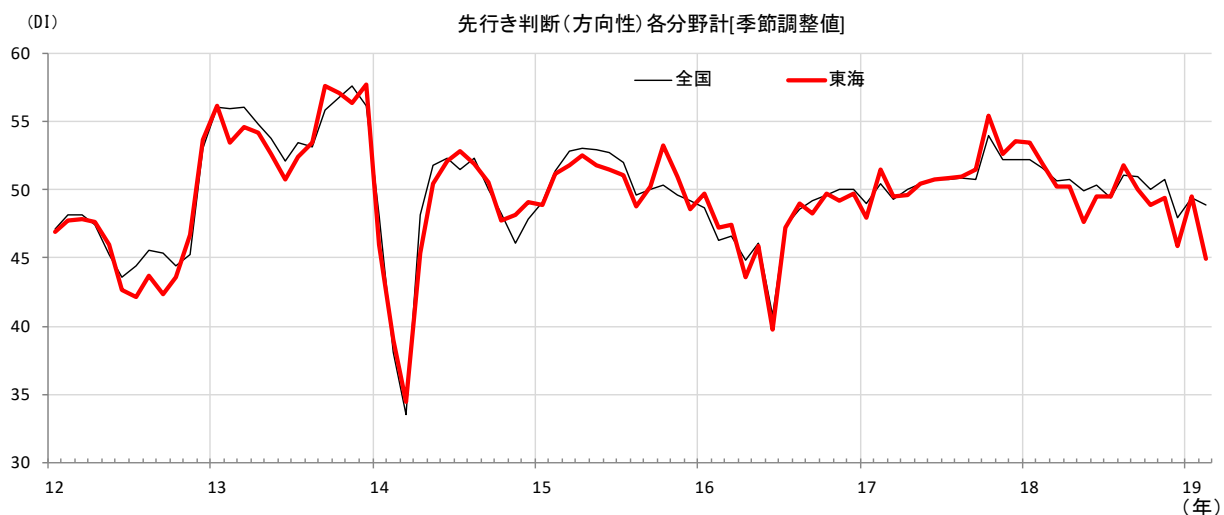
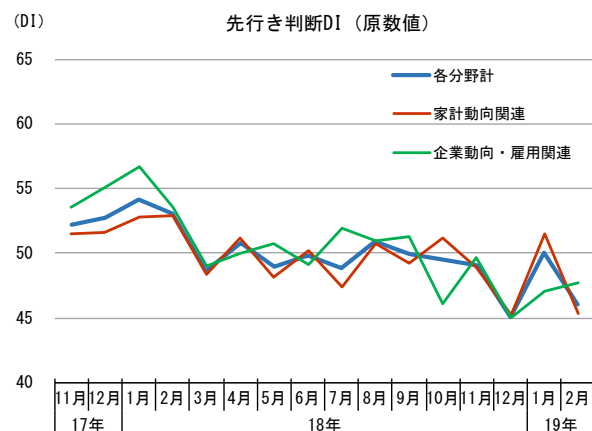
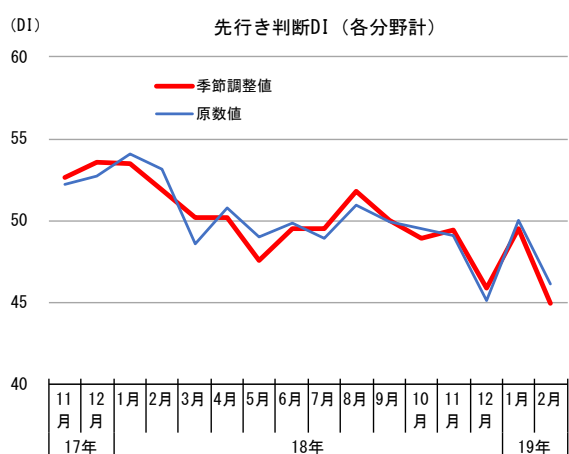
- 求人に一服感が見られるとのコメントが複数見られた。

□	人材派遣会社(企画統括)	企業の求人数は引き続き高い水準にはあるものの、やや一服感がみられる。
□	職業安定所(次長)	新規求人数は、高水準ではあるが横ばい状態である。

2. 景気の先行き判断（2～3ヶ月先の見通し、方向性）

（1）DIの動向

- 2～3ヶ月先の景気の先行きに対する判断DI（各分野計：季節調整値）は、前月差-4.6ポイントの44.9と2ヶ月ぶりに低下した。また、原数値では、前月差-3.9ポイントの46.1と2ヶ月ぶりに低下し、横ばいを示す50を下回った。一部商品の値上げによる消費抑制、大型連休時のモノ消費の落ち込みなどが懸念されている。
- 先行き判断の原数値の動きを部門別に見ると、家計動向関連（小売、飲食、サービス、住宅関連）DIは、同-6.2ポイントの45.3と2ヶ月ぶりに低下し、横ばいを示す50を2ヶ月ぶりに下回った。また、企業動向関連と雇用関連からなるDIは、同+0.6ポイントの47.7と2ヶ月連続で上昇したが、横ばいを示す50を5ヶ月連続で下回った。



(2) ウォッチャーのコメントから読み取る景気動向

(注) コメント引用部左側の記号は以下の通り

◎:良くなる、○:やや良くなる、□:変わらない、▲:やや悪くなる、×:悪くなる

【家計動向関連】

- 一部商品の値上げや消費税率引き上げが消費抑制につながるとのコメントが複数見られる。

□	一般小売店[贈答品](経営者)	3か月先も現状から変わらない。4月からいろいろな物の値上げが発表されているので、消費者は手控えたり金を使う場合も渋っている。売上は上向かず、現状維持が続く。
▲	スーパー(ブロック長)	この先、数多くの食料品の値上げが予定され、余分な買物は今以上に避けると思われる。
▲	スーパー(営業企画)	消費税の引上げがいよいよ迫ってくるなかで、消費の引締め意識が高まりそうである。

- 改元や大型連休でモノの消費が減るとの見方がある。

▲	その他専門店[書籍](店員)	改元で大型連休のところも多いので、金がレジャー代に流れると見込まれる。厳しい状態になるのではないかと懸念している。
▲	家電量販店(フランチャイズ経営者)	3~4月は決算期や新生活を訴求することになるが、2月の来客数をみる限り余り期待できない。ゴールデンウィークの10連休がメディアで取り上げられ、コト消費の傾向が強まりそうである。
×	住宅販売会社(経営者)	5月の連休でレジャーに気が回り、住宅にまで気が向かないのではないかと心配である。

【企業動向関連】

- 企業動向関連については、総じて横ばいとの見方が多い。

□	一般機械器具製造業(経営管理担当)	受注量、販売見込みが横ばいである。
□	電気機械器具製造業(経営者)	今後の見通しは、受注予定表をみると3~4月までは現状の数量での推移となっている。
□	通信業(総務担当)	物流やそれを支えるIT設備の受注からは、それほど大きく活気付くとは思えない。現状維持が良いところという感じがする。やはり国内が明るくなるような話題が欲しい。5月の改元は一大イベントになる予感はある。

【雇用関連】

- 春先は、人の動きが一服するとの声がある。

□	民間職業紹介機関(営業担当)	4月に向けて有職者の転職意欲が徐々に低下してくる時期となる。
□	民間職業紹介機関(窓口担当)	現在は活発な人の動きも、ゴールデンウィーク明けから夏に掛けては落ち着く時期となる。ただし、業績がアップしている企業からは、新卒採用者に期待している戦力以上の業務があれば、人選依頼も期待できる。

景気ウォッチャー調査について

- 景気ウォッチャー調査は、内閣府が月次で公表する景況調査で、百貨店売場担当者、タクシー運転手、企業経営者など地域の景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々に景気の方角性、水準についての見方を回答してもらい、その結果を集計公表するサーベイ調査である。
- 調査対象の職種によって、「家計動向関連」、「企業動向関連」、「雇用関連」に区分し、区分毎に、集計結果を公表している（地域別は各分野計、家計動向関連のみ公表）。
 - 「家計動向関連」：商店街代表者、百貨店担当者、タクシー運転手、美容室従業員など
 - 「企業動向関連」：製造業経営者、非製造業経営者など
 - 「雇用関連」：人材派遣会社社員、職業安定所職員など
- 主な調査項目は、次の3項目。
 - (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
 - (2) 景気の先行きに対する判断（方向性）
 - (3) 景気の現状に対する判断（水準）
 (1)(2)については、判断の理由についても回答を求めている。
- 上記調査項目について、下記の5段階の判断を求め、回答結果をもとにそれぞれ点数を与え、これを各回答区分の構成比に乗じてDIを算出している。回答者全員が「変わらない」と答えた場合、DIは50となるため、DI=50が景気の横ばいを示すこととなる。

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
評価	良くなる (良い)	やや良くなる (やや良い)	変わらない (どちらとも いえない)	やや悪くなる (やや悪い)	悪くなる (悪い)
点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

(出所) 内閣府HP

- 全国各地の地域ブロック毎に集計・分析をおこなっており、東海地区は、岐阜、静岡、愛知、三重の4県が対象となっている。

※調査の詳細については、内閣府HP、「景気ウォッチャー調査」報告書をご参照ください。

－ ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡下さい。